

科目名	言語ⅡC・D									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		黒岩、田中、染矢、刀根	
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ビジネス科2年									
授業概要	N2レベルの語彙の読み書き、意味理解、用法の練習を主とし、実生活の中で運用できるようになることを目的とする。									
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					N2レベルの語彙の意味、漢字の読み方などを覚えることができる				
		○				覚えた語彙を適切な場面で運用できるようになる				
テキスト・教材 参考図書	身近なテーマから広げる！にほんご語彙力アップトレーニング 初級が終わってからレベル(アスク出版 2015年)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	5課～6課 復習					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	2	5課～6課 まとめテスト					誤った箇所は必ず見直しを行うこと			
	3	7課 語彙・表現の導入／練習					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	4	7課 聞き取り／演習(発表)					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	5	8課 語彙・表現の導入／練習					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	6	8課 聞き取り／演習(発表)					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	7	7課～8課 まとめテスト					誤った箇所は必ず見直しを行うこと			
	8	9課 語彙・表現の導入／練習					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	9	9課 聞き取り／演習(発表)					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	10	10課 語彙・表現の導入／練習					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	11	10課 聞き取り／演習(発表)					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	12	9課～10課 まとめテスト					誤った箇所は必ず見直しを行うこと			
	13	N2文字語彙 練習問題①					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	14	N2文字語彙 練習問題②					わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)			
	15	定期試験					出題範囲を把握し復習を行うこと			
評価方法	(1)小テストを数回実施する。(2)宿題を課すことがある。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席状況、授業態度も評価の観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				50%			
	小テスト	◎	◎				30%			
	宿題・出席・授業態度				○		20%			
履修上の注意	進度は状況によって変更する場合があります。									

科目名	言語ⅡC・D										
科目名(英)											
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		柴矢、伊東、田中、刀根		
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	国際ビジネス科2年										
授業概要	N2レベルの文法を身に付け、適切な場面での運用や類似文法との使い分けができるようになる。										
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					N2レベルの文法を習得することができる					
		○				拾得した文法を適切な場面で運用できるようになる					
テキスト・教材 参考図書	TRY!日本語能力試験N2										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	第7課(1) 文型60～62 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	2	第7課(1) 文型63～65 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	3	第7課(2) 文型66～68 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	4	第7課(2) 文型69～72 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	5	第7課(2) Check／まとめの問題					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと				
	6	第8課 文型73～75 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	7	第8課 文型76～77 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	8	第8課 まとめの問題					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと				
	9	第9課(1) 文型78～80 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	10	第9課(1) 文型81～83 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	11	第9課(2) 文型85～87 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	12	第9課(2) 文型88～91 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	13	第9課 Check／まとめの問題					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと				
	14	第10課(1) 文型92～94 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	15	第10課(1)(2) 文型95～97 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	16	第10課(2) 文型98～99 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	17	第10課 まとめの問題					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと				
	18	第11課 文型100～102 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	19	第11課 文型103～105 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	20	第11課 文型106 導入・演習／Check／まとめの問題					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと				
	21	第12課(1) 文型107～109 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	22	第12課(1) 文型110～112 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	23	第12課(2) 文型113～115 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	24	第12課(2) 文型116～118 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	25	第12課 まとめの問題					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと				
	26	第13課(1) 文型119～121 導入・演習					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	27	第13課(1) 文型122～124 導入・演習／Check					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	28	試験前復習①					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	29	試験前復習②					わからない箇所はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
30	定期試験					間違えた箇所は必ず見直しを行うこと					
評価方法	(1)小テストを数回実施する。(2)宿題を課すことがある。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席状況、授業態度も評価の観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				50%				
	小テスト	◎	◎				30%				
	宿題・出席・授業態度				○		20%				
履修上の注意	進度は状況によって変更する場合があります。										

科目名	言語ⅡC・D							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	刀根、安部、伊東、平城	
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科2年							
授業概要	N1レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。							
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					N1レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。		
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。		
		○				文章を正しく読み取り、文脈や話の意図を理解し説明できるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	新完全マスター聴解 日本語能力試験N1(スリーエーネットワーク 2011年) 日本語総まとめ N1 読解 [英語・ベトナム語版](アスク出版 2019年)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	「ポイント理解」練習問題／読解：第3週4～5日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	2	聴解：Ⅴ「概要理解」のスキルを学ぶ(1)／読解：第3週6日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	3	読解：第3週7日目 実践問題					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	4	聴解：Ⅴ「概要理解」のスキルを学ぶ(2)／読解：第4週1日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	5	聴解：Ⅴ「概要理解」のスキルを学ぶ(3)／読解：第4週2日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	6	聴解：Ⅴ「概要理解」のスキルを学ぶ(4)／読解：第4週3～4日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	7	聴解：Ⅴ「概要理解」のスキルを学ぶ(5)／読解：第4週5～6日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	8	聴解：「概要理解」練習問題					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	9	読解：第4週7日目 実践問題					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	10	聴解：Ⅵ「統合理解」のスキルを学ぶ(1)／読解：第5週1日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	11	聴解：Ⅵ「統合理解」のスキルを学ぶ(2)／読解：第5週2日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	12	聴解：「統合理解」練習問題					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	13	読解：第5週3～6日目					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	14	読解：第5週7日目 実践問題					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	15	定期試験					新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
評価方法	(1)小テストを数回実施する。(2)宿題を課すことがある。(3)定期試験(筆記・聴解)を実施する。 (4)出席状況、授業態度も評価の観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	◎				50%	
	小テスト	◎	◎				30%	
	宿題・出席・授業態度				○		20%	
履修上の注意	進度は状況によって変更する場合があります。							

科目名	通訳ⅡB											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		田中 雅彦			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	よりフォーマルな日本語の会話ができたり、文章を作ることができるようになるため、その技法を学び、社内で使用されていく表現を修得する。											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				設定したテーマに沿って日本語でレポートにまとめることができる						
		○				作成したレポートの内容を適切な日本語を使って説明・発表ができる						
テキスト・教材 参考図書	プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション、通訳の基礎知識の復習					テーマを決める					
	2	テーマ設定、母国語にて情報収集										
	3	母国語から日本語へ										
	4	母国語から日本語へ					レポートを完成させること					
	5	中間まとめ										
	6	原稿準備										
	7	原稿準備					原稿作成1次✓切り					
	8	原稿推敲 個人指導										
	9	原稿推敲 個人指導										
	10	原稿推敲 個人指導										
	11	最終原稿まとめ										
	12	発表①										
	13	発表②										
	14	発表③										
	15	総論										
評価方法	(1)提出物 (2)出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	提出物	○		◎								60%
	出席状況・授業態度							◎				40%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。 授業計画は状況により変更になることがある。											

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		寺崎 葉子			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	企業内、ビジネス場面で想定される会話が理解でき、応答できるようになる											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					日本企業で働くにあたって必要な語彙の習得し、自分の言葉で説明できる						
		○				相手から発せられた会話が理解でき、適切な応答ができる						
		○				適切な語彙、マナーや日本の習慣、慣習も踏まえた発話ができる						
テキスト・教材 参考図書	『人を動かす!実戦ビジネス日本語会話【中級】』(スリーエーネットワーク 2016年)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	授業概要説明、第5課「職場の人とランチに行く」										
	2	第5課「職場の人とランチに行く」										
	3	第5課「職場の人とランチに行く」										
	4	第5課「職場の人とランチに行く」					第6課の会話確認					
	5	第6課「家族と休みの計画を立てる」										
	6	第6課「家族と休みの計画を立てる」										
	7	第6課「家族と休みの計画を立てる」										
	8	第6課「家族と休みの計画を立てる」					第7課の会話確認					
	9	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」										
	10	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」										
	11	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」										
	12	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」					第8課の会話確認					
	13	第8課「人材紹介会社の人を面談をする」										
	14	第8課「人材紹介会社の人を面談をする」										
	15	第8課「人材紹介会社の人を面談をする」					期末試験のための復習					
評価方法	(1)次の授業で前回の新出語彙について小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								50%
	小テスト	◎		◎								30%
	出席・授業態度							◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。進度は状況によって変えることがある。											

科目名	貿易実務A											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		白岩 和幸			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	貿易の仕組みや貿易の流れの基本を理解する											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					基礎的な貿易についての言葉の習得し、自分の言葉で説明できる						
		○				貿易実務に付随する事項を理解し、自分の言葉でその説明ができる						
テキスト・教材 参考図書	『絵で見る貿易のしくみ改訂版』 日本能率協会マネジメントセンター											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	授業概要説明 前期の復習 貿易取引条件										
	2	第6章 貿易取引条件 インコタームズ										
	3	第7章 貿易取引リスクと保険 貿易ででてくる保険 ポイント										
	4	第7章 貿易取引リスクと保険 保険約款・貿易保険とはなど										
	5	第8章 輸出実務の流れ 在来船による輸出										
	6	第8章 輸出実務の流れ コンテナ船										
	7	第9章 輸入実務の流れ ①										
	8	第9章 輸入実務の流れ ② 関税の仕組みなど										
	9	第10章 お金のやりとり 外国為替 決済とは										
	10	第11章 貿易に関する規制の仕組み ①										
	11	第11章 貿易に関する規制の仕組み ② 検疫制度など										
	12	第12章 個人輸入 ① 規制・関税										
	13	第12章 個人輸入 ② 貨物の受け取り・アクシデント										
	14	個人輸入のシミュレーション 模擬実践										
	15	後期まとめ テストに向けての復習					期末試験のための復習					
評価方法	(1)授業の中で小テスト (2)レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								50%
	小テスト・レポート											10%
	出席・態度・意欲							◎				40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	IT応用 I B									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	原田 寛子	
実施年度	2020年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	国際ビジネス科2年									
授業概要	PowerPointを使って、プレゼンテーションを作成し、発表の練習をしながら、内容がしっかりと相手に伝わる発表ができるようにする									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				PowerPointを使って、プレゼンテーション資料が作成できる				
	○	○				相手に伝わるように発表ができる				
テキスト・教材 参考図書	講師作成資料等									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	PowerPointの画面構成、スライド作成								
	2	アニメーション、画面切り替え効果								
	3	リハーサル機能								
	4	スライド作成								
	5	スライド作成								
	6	第1回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる			
	7	第1回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる			
	8	アニメーション付きのプレゼン作成								
	9	アニメーション付きのプレゼン修正								
	10	アニメーション付きのプレゼン仕上げ								
	11	発表練習(Wordで発表内容をまとめる)								
	12	発表練習(発表内容の修正)					発表内容はある程度完成させる			
	13	スライド修正、原稿完成								
	14	第2回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる			
15	第2回プレゼン発表					発表前にはプレゼンを完成させる				
評価方法	(1)授業の中で課題を作成する。(2)発表内容を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	課題作成		◎				60%			
	発表内容	○	○				40%			
履修上の注意	課題は毎回忘れずに提出すること。2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。 授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。									

科目名	接客演習B											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		姫嶋 幸子			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	1)日本でのビジネス場面で、必要なマナーについて知識を得る 2)1)を踏まえてビジネスシーンでの受付対応、お見送りができるようになる											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○	○	○		第一印象を大切にしたい挨拶を常にすることができる						
	○	○				正しい敬語で受け答えができ、相手に良い印象を与えるポイントを説明できる						
		○				日本独特のしきたりを理解し、正しいマナーを日本語で説明できる						
		○		○		愛想のよい電話の受け方ができる						
		○				あらゆるサービスの場面で適切な対応の仕方を選択肢から選ぶことができる						
テキスト・教材 参考図書	参考：サービス接客検定3級実問題集・プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	第一印象・感じのいい自己紹介										
	2	第一印象・入退室					ロールプレイングのための課題をすること					
	3	敬語・書類の渡し方					次週、確認テストを行うので、 指定の範囲を復習すること					
	4	指し示し方・物の拾い方、渡し方										
	5	日本における感じのいいビジネスパーソンの髪型、服装										
	6	日本における冠婚葬祭時のしきたりとマナー					次週、確認テストを行うので、 指定の範囲を復習すること					
	7	受付対応練習①基本的な言葉の練習					ロールプレイングのための課題をすること					
	8	受付対応練習②ご案内のルーティンを覚える					ロールプレイングのための課題をすること					
	9	受付対応練習③クレームをうける					ロールプレイングのための課題をすること					
	10	受付対応練習④総復習										
	11	サービス接客検定3級にチャレンジ					次週、確認テストを行うので、 指定の範囲を復習すること					
	12	サービス接客検定3級にチャレンジ					次週、確認テストを行うので、 指定の範囲を復習すること					
	13	サービス接客検定3級にチャレンジ					次週、確認テストを行うので、 指定の範囲を復習すること					
	14	サービス接客検定3級にチャレンジ										
	15	まとめ・発表会										
評価方法	(1)授業の中で確認テストを適宜実施する。(2)学習したことをロールプレイングで表現する (3)発表会を日本語で行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	確認テスト	○		◎								40%
	態度・意欲・出席							○				20%
	ロールプレイング			○		○		◎				20%
	発表会	○				○		○				20%
履修上の注意	授業で学んだことは、アルバイトなど、日常生活の中で実践すること 各テストで60点以上得点できるよう、必ず授業の復習を行うこと。											

科目名	企業HR論B										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		田中 雅彦		
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	国際ビジネス科2年										
授業概要	留学生が日本で就職をし、仕事をしていく上で有益となる知識を身につけ、自己発信力や傾聴力をさらに伸ばし、社会人基礎力などを理解していく。										
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○			○		日本で仕事をするために必要となる知識を身につけ、よりスムーズに社会人生活をスタートすることができる。					
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション、後期の授業に関して									
	2	企業研究の仕方①									
	3	企業研究の仕方②									
	4	異文化理解①									
	5	自分史の作り方					自分なりに自己分析の仕方を考えてくること				
	6	自己分析のやり方①									
	7	自己分析のやり方②									
	8	異文化理解②									
	9	面接における会話について①					自分なりに面接での受け答えの文を考えてくること				
	10	面接における会話について②									
	11	面接における会話について③									
	12	異文化理解③									
	13	新入社員に求められるもの①					確認テストの準備をしてくること				
	14	新入社員に求められるもの②									
	15	まとめ									
評価方法	確認テスト、提出物および態度・意欲にて評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(60点未満)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	出席状況・授業態度				◎		50%				
	確認テスト	◎					50%				
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。 授業計画は状況により変更になることがある。 再試験は実施しない。										

科目名	卒業研究											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		田中 雅彦			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	自分でテーマを設定し、調べた内容をまとめて、卒業研究として調査をし、自分の考えを表現することができるようになることを目標とする。											
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	◎				与えられた大テーマに関連した自分の卒業研究のテーマを選び調べることができる						
	○	◎				卒業研究のテーマに沿ったプレゼンテーションができる						
テキスト・教材 参考図書	プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション、プレゼンテーションの基礎知識					自分のテーマ設定をしてくる					
	2	研究レポート作成のポイント①										
	3	研究レポート作成のポイント②					研究レポートを完成させる					
	4	卒業研究の準備①										
	5	卒業研究の準備②					中間発表の準備をしてくる					
	6	卒業研究中間発表①										
	7	卒業研究中間発表②										
	8	卒業研究修正					プレゼンテーションの修正をしてくる					
	9	卒業研究中間発表③										
	10	卒業研究中間発表④										
	11	ファイナリストプレゼンテーション準備①					ファイナリストの発表準備をする					
	12	ファイナリストプレゼンテーション準備②										
	13	ファイナリストプレゼンテーション準備③					全体発表について各自の役割を最終確認する					
	14	全体発表										
	15	まとめ										
評価方法	個人発表およびグループ発表があり、それらの成果にて評価をする。 グループ活動への参加度合いや態度・意欲も評価に加味する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	発表	○		◎				○				70%
	出席状況・授業態度							◎				30%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。 授業計画は状況により変更になることがある。											

科目名	会計実務B											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		小林 憲一			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	国際ビジネス科2年											
授業概要	全経簿記3級の内容をベースに、複式簿記を初めて学ぶ学生を対象に、簿記の仕訳、記帳、計算ができるようになるための簿記原理を学ぶ。複式簿記は、日常の経営活動によって生じる現金や商品売買、貸借関係などを、貨幣額としてとらえて計算を行うところに特徴がある。簿記は企業の財産管理に役立てたり、簿記で計算した数値を企業外部の人たちに情報を開示する役割もある。したがって、すべての学生が簿記を修得できるように、できるだけわかりやすく講義するとともに、数多くの問題演習を行ってもらう。											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○			○		勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みが説明できる。						
		○		○		全経簿記3級の後半の内容を理解し、説明ができる。						
		○		○		全経簿記3級の検定問題すべて解答ができる。						
テキスト・教材 参考図書	全経簿記能力検定試験公式テキスト3級 ネットスクール出版 第4班											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-3	税金・引出金 消費税の処理 引出金と税金					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4-6	有価証券 有形固定資産 株式の発行 株式会社の資本構成					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7-9	決算の手続き(2) 決算整理記入 売上原価の計算					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	10-12	決算の手続き(2) 貸倒れの見積もり 消耗品費の処理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13-15	決算の手続き(2) 費用の繰延べ、見越し					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	16-18	精算表 財務諸表 損益計算書と貸借対照表 帳簿の締切り					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-21	伝票会計・試算表 3伝票制 試算表作成問題の解き方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	22-24	過去問題演習										
	25-27	過去問題演習										
	28-30	過去問題演習										
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験			◎								50%
	小テスト			◎								30%
	宿題・授業態度			◎				◎				20%
履修上の注意												

科目名	一般教養Ⅱ										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		田中 雅彦		
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	国際ビジネス科2年										
授業概要	言語と非言語の文章題を解く事により、社会人として必要な知識や問題解決力を身につけることを目標とする。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					日本で生活をする上で最低限必要となる漢字の問題を解くことができる。					
	○	○				数的な問題の基本を理解し、自分の力で問題を解くことができる。					
		○				時事問題について自分の考えを持つことができる。					
テキスト・教材 参考図書	プリント										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション、就職適性検査の説明、漢字									
	2	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	3	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	4	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	5	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	6	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	7	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	8	SPI対策、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	9	時事、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	10	時事、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	11	時事、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	12	時事、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	13	時事、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	14	時事、漢字					漢字の確認テストの準備をしてくる				
	15	確認テスト					正試験に向けての準備をしておくこと				
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)確認テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	◎				50%				
	確認テスト	○					30%				
	授業態度・出席状況				◎		20%				
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。 授業計画は状況により変更になることがある。										